

米国に渡り現地に合った
販売モデルを確立

大谷 ブラザー工業（以下「ブラザー」という）といふと、昭和世代にはミシンの会社の印象が強いですが、今はプリンティング機器を主力とするグローバル企業へと成長しています。

小池 創業者兄弟がミシンの量産化に成功し、輸入産業から輸出産業へと変え、戦後には編み機をはじめ、家電、楽器やタイプライターと多角化を進めていきます。戦後、日本人の生活がまだ豊かでないころは、タログを使った訪問販売による積立

グローバル視点で時流をつかみ 大胆かつ着実に領域を越境

ミシンの修理業からグローバル企業へ、数度の経営危機を乗り越えながら転身を遂げたブラザー工業。

取締役会長の小池利和氏に、新規マーケットの開拓、社長時代の経営戦略、今後の人材育成について聞いた。

[ブラザー工業株式会社]

設立 1934年1月15日（創業 1908年）

資本金 19,209百万円（2025年3月31日現在）

従業員数 42,801人（2025年3月31日現在 連結）

事業内容 プリンター・複合機、ラベルライター、産業用印刷機器、工作機械、工業用・

